

平成26年度 理科の授業改善のための方針

1 平成25年度の成果と課題 (☆成果 ●課題)

☆3年生以上の全学年が課題に対する仮説をたて検証する問題解決学習により、見通しをもった学習を展開することができた。

☆体験活動を重視した学習活動によって、個々の意欲・関心が高まり、知識・理解へとつなげることができた。

●単元によっては、観察や実験等の活動が不足、または難しいものがあり、授業中の体験活動について視聴覚機器を活用するなど、さらなる検討をする必要がある。

●より積極的に児童相互の話し合い時間を確保し、科学的な言葉や概念を使用して考えたり説明したりする学習活動が充実するよう配慮していく。

2 児童の実態

(児童・生徒の学力向上を図るための調査(5年)の結果)

- ・自然事象について意欲的に学習しようとしている。
- ・知識を活用して科学的に考えたり、表現したりすることが苦手である。
- ・昆虫の体のつくりなど、生物単元の知識の定着が十分でない。

(3年～6年の児童の実態)

- ① 理科においては、新しい知識を知りたいという意欲が高く、学習に意欲的に取り組んでいる。
- ② 明確な課題について、仮説を立てて考えることができる児童が多い。
- ③ 実験の様子などを観察し記録することができる児童は多いが、わかったことを自分の言葉でまとめる力に不安がある児童もいる。
- ④ 実験結果や考察した内容を発表する際に、一部の児童が発表し、それに同意していくだけの場面が比較的に多く見られる。
- ⑤ 体験活動など、実際の作業や本物の観察等を通じて学習することによって、知識・理解を深める児童が多い。
- ⑥ 実験器具や道具の使い方など、伝えたことを的確に理解し行動できる児童が多い。

3 今年度の方策

① 業中の指導

- ・科学的な知識や概念の定着を図り、科学的な見方や考え方を育成するため、観察・実験など科学的な体験活動を一層充実させる。
- ・問題解決学習の充実を図る。(予想→意見交流→解決方法検証→実験・観察→結果→考察などの学習の流れを各学年で共通して行う)
- ・予想や実験結果を科学的な言葉や概念を使って表現させることで、言語活動の充実を図る。

② 全校での指導

- ・図や表、グラフにして記録させる。
- ・道徳と関連付けて、理科の特質に応じて指導する。
- ・話し合い活動や表現活動の機会を積極的に設け、言語活動の充実を図る。
- ・科学の読み物を読んだり科学番組を見たりすることを勧め、話題として取り上げる。

4 学年ごとの重点目標

学年	重点目標
3年	実験では諸注意とめあてを明確に指示してねらいに沿って実験ができるようにし、観察では何をどのように観察するのか方法を十分吟味させる。
4年	実験や観察の計画段階で、なぜそれを行う必要があるのか十分に吟味させるとともに、発展として挑戦してみたいことを奨励する。
5年	科学的な思考を深められるよう予想を立てる時間を十分設け、実験結果から論理的に考察を考えられるようする。そして反復学習を重視した学習活動により、知識を確実に習得できるようにする。
6年	実験や観察の必要性を理解した上で、予想を立てる時間を設け、予想や実験結果を科学的な言葉を使って交流しながら実験・観察を行うようにする。